

令和7年度第1回羽島市健幸づくり施策検討委員会（会議要旨）

日 時	令和7年7月11日（金） 午後1時30分～2時30分
場 所	羽島市役所 4階 第1委員会室
出 席 者	<p>（委員）出席者12名 田中 吉政（羽島市医師会会長）、岩田 明（羽島市自治委員会理事）、 河合 悟（羽島歯科医師会会長）、小川 徹（羽島薬剤師会会長）、 久保田 芳則（岐阜保健所所長）、浅井 廣志（羽島市民生委員児童 委員協議会会長）、渡邊 享司（羽島市保育会会長）、今井田 明弘 （羽島市小中学校長会代表）、高木 豊（羽島市スポーツ協会会長）、 立花 智美（羽島市総合型地域スポーツクラブ代表）、不破 直子（羽 島市食生活改善連絡協議会会長）、尾畑 明日香（公募委員）</p> <p>（事務局）13名 松井市長、熊崎子育て・健幸担当部長、國井子育て・健幸課健幸担当 課長、児山学校教育課長、柴田スポーツ推進課長、伊藤高齡福祉課 長、佐藤保険年金課長、横山保健政策担当課長補佐、赤嶺健幸担当 課長補佐、中間予防・保健指導担当課長補佐、山田保健指導係長、 永田健幸増進係長、小塚主査</p> <p>（傍聴者）0名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>- 傍聴報告および会議の公開について説明、委員の紹介、事務局の 紹介、会長・副会長の選出、会議資料・参考資料の確認 -</p> <p>3 議事 （1）羽島市第3期健康増進計画「元気はしま21」の進捗状況と令 和7年度の取り組みについて - 事務局より資料に基づき説明（資料1）</p> <p>- 質疑応答 - （委員 メールによる事前質問） 重点政策の循環器病等対策について、様々な取り組みにも変化が現 れず苦勞が推察される。がん検診時の普及啓発や各種教室講座等 において、情報提供や保健指導を受けた住民の反応はどうだったか。 データの改善はすぐに出ないが、プロセス評価はどうされているか。 （事務局） 集団がん検診時の高血圧予防啓発は令和5年度から開始し6年度は 実施回数を拡大して実施。啓発実施者数は令和5年度243名から6 年度553名と増加。実施人数がプロセス評価の指標。住民の反応は、</p>

血圧測定を勧めると抵抗なく測定する方が多く、40・50歳代は日頃測定する機会がなく、自身の血圧値を知らない方が多い印象。食生活改善推進員による野菜摂取や具体的な減塩方法の紹介が減塩への意識付けになる。

（委員 メールによる事前質問）

高血圧対策としての減塩について、より予防的意義を考え、母子保健事業で取り組んでいる自治体の例を聞くが、羽島市ではどうか。

（事務局）

1歳6か月児・3歳児健診時、減塩や肥満について保護者に個別指導を実施。3歳児健診では塩分チェックシートを用いて保護者に塩分量を振り返ってもらい、家族で減塩について考える機会としている。

（委員）

資料1- 、糖尿病性腎症を原因とした新規透析導入患者数が令和4年度から5年度、約6倍に増加。これに対する分析や対策は。

（事務局）

この人数は新規透析患者のうちレセプトの傷病名に糖尿病と記載されている場合のみを抽出。この者達を原疾患までたどって確認することは難しく、必ずしも元疾患が糖尿病であると言い切れない。実際、当市の新規透析患者のうち糖尿病以外の傷病名の者を含めると、令和3年度19件、4年度10件、5年度17件と、極端に増加というわけではない。対策としては、透析移行前の治療がまず必要であるため、医療機関未受診者や治療中断者に対する受診勧奨を実施。治療中の改善不良者に対しても保健指導や食事指導を併せて実施。

（委員）

1万人に対して何人なのか、他市町と比較してどうか、新規透析者数は少ないため個別に様々なデータを収集する等、より深い分析をし、対策を検討する必要があるのではないか。

（委員）

メタボ該当者が多く、さらに高血圧が県内ワースト1~2位という危機的な状況。模範的な取り組みだけでなく、市長自ら広報誌等に危機感を煽るようなアピールや、感情に訴えかける方法はどうか。

（事務局）

広報誌やタウン誌への掲載もあり、他市に職員を派遣し実例を参考にしたこともある。様々な取組でも長年改善できていない。単純な啓発で変化を起こせるものではないと認識しており、今後も国保以外のデータを集約しながら取り組んでいきたい。

メタボ該当者が多い要因の参考として、過去の特定健診質問票より、1日30分以上の運動習慣がない、間食や甘い飲み物を毎日飲むと回答した者の割合が、国や県と比較して多い。健診受診を促すとともに、案内に市の現状を掲載して個人の危機感に訴えかけている。

（委員）

小学校の取組としては、休み時間の外遊びを勧め、県教育委員会が行うチャレンジスポーツ in ぎふの取り組みにある縄跳びを推奨。ま

た、高血圧対策にも関わる上で学校給食の担う役割は大きい。給食を通じた食育指導が将来の子ども達のメタボ対策になると考える。また、がん教育を学校医・市医師会と協力して実施しており、児童生徒の将来の健康管理につながっている。

(委員)

資料1 - 、むし歯のない3歳児はわずかに上昇傾向であるが、県下での比較は。幼稚園・保育園では年2回の歯科健診を勧められている。公的な歯科健診後の4、5歳児等の結果は市で把握しているか。2歳以上12歳未満において岐阜県は全国的にみて歯の優良県。しかし、3歳以上の幼児において、う歯の割合は増えていると感じる。

(事務局)

3歳児健診以降の状況は未把握。う歯保有率について、岐阜地域と羽島市の比較にて大差無く、当市が特に良好という認識ではない。予防的観点から、妊婦健診での歯科健診の勧奨等、妊娠中から歯・口腔への関心を高める働きかけを引き続き実施。

(委員)

保育園に所属する乳幼児は保護者が就労で忙しく、朝食を食べさせずに登園することがある。菓子を食事として与えている場合もあり、その様な保護者への指導はどうしたら良いか。

(事務局)

個々の背景や状況があるため、指導は非常に難しい。例えば妊娠中は、新しい命を守りたい気持ちから生活改善への意欲が高まり、指導が響きやすい。効果的な方法は一概に言えないが、絶えず家庭を見守り、声かけを続けることが良いのではないかと思う。市の出生数は減少しているが、子育て世帯の転入者は増加傾向。3歳児健診を終えてからの転入も多く、指導が行き届いていない場合もあり得る。様々な情報媒体を駆使して発信しているが、無関心層が増えているのではないかと推察。少しでも届くように、行政情報や健康に関する啓発は積極的にLINEやアプリ等を用いて行う。

(委員)

運動について、運動時間に関するエビデンスは無いとの話題もある。歩数や運動時間に高い目標を立てると最初から取り組まない者も多い。例えば40分座ったら1回立つ等の視点を参考にしたい。

(事務局)

動く時間という考え方ではなく、短時間の運動を断続的に行う等の紹介も検討していきたい。

(委員)

資料1 - 基本方針5、自殺者数4人以下という目標であるが、0人を目指すべきではないか。

(事務局)

当然0人が望ましいが、国の基準に則り目標値を設定している。